



▲提供を受けた支援物資（11月29日）



▲避難所炊き出しの準備（11月28日）

市民生活や企業活動に 大きな影響

11/
27~30

市内全域で大規模停電

暴風や電線への着雪などにより、送電用鉄塔が倒壊したため、11月27日（火）から30日（金）にかけて、市内の広い範囲で大規模停電が発生し、市民生活や企業活動に大きな影響を及ぼしました。

市は、27日に災害対策本部を設置し、鷺別公民館や市民会館、婦人センターなどに避難所を開設。広報車で避難所の開設を広報するとともに、登別市連合町内会の協力により、町内会役員が手分けをして避難所情報の発信や高齢者の安否確認を行い、突然の停電に戸惑う市民を勇気づけました。

各避難所には、平成24年に締結したレンタル業者との災害協定に基づき、ストーブや仮設トイレなどを速やかに設置するとともに、北海道を通じて災害派遣を要請した陸上自衛隊からは、発電機や照明、ストーブ、毛布など、北海道開発局からは電源車と毛布の貸与を受けました。

『危機発生時における相互応援に関する協定』を締結している宮城県

白石市と神奈川県海老名市からは、非常食や使い捨てカイロなどを提供していただいたほか、札幌市白石区からはストーブの貸与などの協力を得ました。

8箇所開設した避難所には、多いときで323人が避難。市は、避難者が安心して避難所生活を送れるよう保健師が避難所を巡回して健康確認を行うとともに、停電による生活への不安について相談に応じる『避難所巡回相談』を行いました。

また、市民団体の協力を得て炊き出しを行い、避難者に温かい食事を提供したほか、市内外の企業・医療機関から寝袋や手回しラジオ・ライトなどの寄付、看護師の巡回などの協力がありました。

停電が全面復旧するまでに4日間を要しましたが、市民は交通ルールを守って、信号機が消灯した交差点で道を譲り合ったり、市民同士が声を掛け合い、停電下の生活を協力して乗り切ろうしたりするなど、冷静に対応していました。



▲北海道開発局が設置した電源車



▲建設中の北海道電力仮鉄塔